令和６年１月１２日

美浜町立布土小学校保護者　各位

美浜町立布土小学校長
石川　　稔

令和５年度　「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

初春の候、保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日ごろは本校の教育活動にご理解ご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、１学期に実施されました「全国学力・学習状況調査」における本校の調査結果を、愛知県版結果分析ソフトにより分析いたしました。

つきましては、下記のとおり分析の結果をお知らせいたします。ぜひご一読いただき、今後も保護者の皆様のご理解とご協力をいただきながら連携を図り、より一層の教育活動の充実に努めていきたいと考えております。よろしくお願い申し上げます。

記

１　調査結果

(1) 教科に関する調査

【国　語】

①全体的な傾向

・問題の平均正答率は、愛知県および全国の平均正答率をやや下回っている。

・「読むこと」の領域について、他の領域と比較するとやや理解度が高い。

②問題の正答率から見た考察

◇相当数の児童ができている問題

・目的を意識して、中心となる語や文を見付けて、要約すること

・送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うこと

◆課題のある問題

・図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。

・学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うこと

・原因と結果など情報と情報との関係について理解すること

＜指導改善のポイント＞

○他教科等と関連して図表やグラフの読み取りを指導する。文章を書く場面では、書く目的や内容、構成を熟考させてから、書き始めるよう指導する。

○同音異義語に注意し、漢字のもつ意味を考えて使う習慣を身に付けさせ、文や文章の中で積極的に使うように指導する。

○印を付けたり、情報と情報の関係をまとめたりすることで、さまざまな情報の中から原因と結果などの関係を見いだし、結び付けて捉えることができるようにさせる。

【算　数】

①全体的な傾向

・問題の平均正答率は、愛知県および全国の平均正答率とほぼ同じである。

・「数と計算」および「変化と関係」の領域について、他の領域と比較するとやや理解度が高い。

②問題の正答率から見た考察

◇相当数の児童ができている問題

・伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めること

・正方形の意味や性質について理解していること

・加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすること

◆課題のある問題

・高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述すること

・示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述すること

＜指導改善のポイント＞

○図形を構成する要素や構成する要素の間の関係に着目して図形を観察したり、操作したりする活動を通して、図形の意味や性質を見いだしたり、それらの操作について、図形の意味や性質を基に考えたりできるように指導する。

○一つのグラフの部分と部分や、複数のグラフを比べ、同じところや似ているところ、少し違うところや大きく違うところを見いだすことができるようにさせる。さらに、なぜそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かりやすく説明させる場面を多く設定する。

(2) 児童質問紙調査

◇全国や愛知県の値より優れている項目

・放課や休日に、本を読んだり、借りたりするために、学校や地域の図書館に行っている。

・地域や社会をよくするために何かしてみたいと思っている。

・今住んでいる地域の行事に参加している。

◆全国や愛知県の値と比べてやや課題があると思われる項目

・困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できると思えない。

・友達関係に満足しておらず、普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはやや少ない。

2　調査結果から見た課題と今後の取組

○基礎・基本の定着を図るとともに、児童が主体的に学ぶ力を身に付けられるように努めます。

・プリントタイムや漢字・算数コンクール、チームティーチングなどを活用して、基礎・基本の定着を図ります。

・根拠を明確にさせた上で、伝える場を設定することで、言語活動を充実させ、協働的な学びを通して主体的に問題解決をすることができる児童を育成します。

○学級や学校がどの児童にも安心して過ごせる場所になるように努めます。

・小規模校の特性を生かして、教員が児童一人一人の言動を注意深く見守り、個の特性を理解し肯定的に受け入れることで、温かい人間関係を構築できるようにします。

・楽しく分かる授業や学級発表会、係活動などを通して活躍の場をつくることで、自己有用感に裏付けされた自己肯定感や充実感が感じられるようにします。